

新ルート新サービスで利便性向上

交通政策推進事業

令和5年度から市内循環ワゴンは新ルートでの運行を開始し、IC決済やバスロケーションシステムの導入などで便利になりました。審議では利用状況や課題について質疑されました。

問 運行計画やサービス見直しの内容とその効果は。

答 令和5年4月より市役所本庁舎と大井総合支所を結ぶ新コースを加えた全5コースでの運行を開始した。

これにより市内の東西連絡性の向上、川崎・元福岡地域での乗り残しの改善、大井武蔵野地域及び亀久保地域において相互通行となるなど利便性の向上が図られている。

また、スマホ等でワゴンの現在位置を確認できるバスロケーションシステムや、交通系ICカードによるキャッシュレス決済の導入によって利用者サービスの向上も図られた。



市の東西の架け橋 E コース

その結果、令和5年度の利用者数は過

去最多の10万9754人となった。

問 今後の取り組みべき課題は。

答 利用者増加に伴って従来発生していなかった停留所で新たな乗り残し事例が発生しているが、その際には速やかに予備車を手配して対応している。また、新コースは踏切を通ることから列車事故等のトラブルが発生した際には市のホームページやバスロケーションシステム上で遅延情報をお知らせしている。

運転手の確保も引き続き課題となっていることから、給料面等の運転手の処遇改善を図ることで解決に向けて取り組んでいく。

スクール・サポート・スタッフの配置で業務改善

教育支援事業

令和5年度より教職員の業務改善のため、スクール・サポート・スタッフが新たに配置され、教職員の労働時間の短縮につながっていることが質疑で明らかになりました。

問 配置の状況は。

答 教員業務支援員スクール・サポート・スタッフの配置状況は市内で19人、19校に配置している。大規模6校には週3日間、それ以外の学校には週2日間の配置をしている。1日4時間勤務のため、4時間分の業務を先生に代わって行っている。

問 主な業務内容は。

答 印刷、データ入力、教材の作成補助など、今まで教員が行っていた事務的な業務を代わって行う。



意外と多い事務作業

果は。

答 時間外在校等時間が1ヵ月で45時間を超えた教職員は、小学校では令和4年6月期61・3%から令和5年6月期50・5%、中学校では令和4年6月期74・7%から令和5年6月期60・3%と年々減少している。

わたしもひと言



事業開始当初は少し不慣れな点もありましたが、現在では作業依頼の形式も整い、事務量の削減に大いにつながっています。事務作業のほか、校内の時計の点検や入学式、卒業式などの行事の補助もお願いしています。

教員が生徒と向き合える時間が増えたことが一番良かったことで、今ではいけないことが考えられないほど助かっています。

大井中学校 校長 本川秀知先生